



## 財政、医療、高齢者、五輪、志茂の課題

### 永沼かつゆき議員が11月定例会で会派の代表質問

#### 歳入確保に向け新たな手法を



北区の人口が20年ぶりに34万人を超えました。

歳入面では特別区税収入は29年度当初予算では前年度から約6億円の増額となり、特別区交付金は485億円と前年度並みの予算を計上しています。

そして主要5基金の合計では約500億となり、北区の財政の対応力は高まってきているとのこと。

一般会計で占める特別区税の割合は19.3%である一方、特別区交付金は33.0%となっており、依然として北区の財政は景気の影響を受けやすい体質であります。

歳出面では、扶助費が保育所待機児童解消に伴う児童福祉費の伸びや高齢化の進展などにより年々増加していることにより、義務的経費は50%を越える比率となっています。

歳入面においては、歳入確保に向けて新たな手法を考えるべきではないかと考えます。そこで日本版CCRC構想があり、これは都市部で生活する高齢者が、自らの希望に応じて地方に移り住み、地域社会において健康でアクティブな生活を送るとともに、医療介護が必要な時には継続的なケアを受けることができるような地域づくりを目指す必要があります。

このように包括的な医療介護のシステムを変換することで、北区の構想を念頭に包括的な医療介護ができる法人や企業を誘致するなど、柔軟な発想で歳入の確保をしていくことが必要と考えますが、見解をお聞かせください。

#### 自己肯定感の低下が自殺の原因

近年、日本人は自己肯定感が乏しいと言われていています。

自己肯定感の背景には自分の国や文化を愛し、生まれ育った故郷を愛することが必要なのです。世田谷区の小中学生2600人に聞いた区の調査(2011年)によると、「自分自身が好きですか」という質問に対して「はい」と答えたのは、小学5年生で52%、中学2年生では32%まで落ちていきます。年齢を重

ねるごとに、子どもの自己肯定感が下がっています。

15歳以上から20代30代の死因の第1位は自殺です。若い層の自殺の多さの背景に、この自己肯定感の低さがあるのではないかと考えます。自己肯定感の認識について、北区では現在どのようなことを取り組んできたのか、今後についてもお答えください。

#### 区民参加の五輪と聖火リレー

東京五輪・パラリンピックの気運醸成を図りつつ、おもてなしの心溢れるボランティアとして活躍できる人材を育成することが必要です。外国人がそれぞれの国ボランティアリーダーを担い、そのサポートが小学生、中学生を含めたボランティアを募り、一緒に大会に参加するという仕組みづくりをしてはどうでしょうか。

聖火リレーは、オリンピックだけでなく、パラリンピックを含め、より多くの区民が参加できるようにしていきたいと思えます。

#### 介護予防の新しい総合事業

現在、北区の人口は約34万5000人、高齢者の人口約8万7000人、そのうち後期高齢者数4万4000人(約25.4%)で、特別区で高齢化率は最高であり要介護3～5度は約6000人(5970人)であります。

従来の介護予防サービスは、国の介護保険制度によって基準や単価が全国一律でしたが、新しい総合事業では各市町村が基準や単価を設定して運営することになります。

総合事業は、何らかの支援が必要な65歳以上のすべての方が対象です。

歩行訓練をした場合、転倒して捻挫、骨折等の怪我をされる恐れがあり、即座に対応することができず、上半身の機能訓練をすることになります。

整形外科の診療所、接骨院は北区に約100軒あります。そこが拠点となり、地域での機能訓練のみならず、交流が生まれると考えます。

#### 後期高齢者の医療対策

後期高齢者北区国民健康特定健診等実施計画第3期案の中で、平成28年度の生活習慣病患者数は平成27年度と比較すると、高血圧症、脂質異常症、高

尿酸血症肝機能障害はいずれも減少していますが、糖尿病の患者数が増えています。有病率は歳を重ねていくうちに右肩上がりに急上昇しています。糖尿病と歯周病との関係が深いことも近年わかっており、歯周病の治療が糖尿病の重篤化を防ぐこととなります。

都道府県後期高齢者医療広域連合は75歳以上の健康診査については、健康保持・増進及び疾病予防を促進するため実施している健康診査の他に、歯周病を起因とする細菌性心内膜炎・動脈硬化症の悪化、口腔機能低下による嚥下性肺炎等を予防するための歯科検診を実施する場合、平成26年度から国庫補助を実施しています。歯科健診費用に対して補助を行っており、補助率は3分の1となっています。東京都でも後期高齢者保険医療についての事業のうち歯科検診が平成30年度から行えるようになりました。北区の見解をお聞きます。

#### 北区の受動喫煙対策は

近年のオリンピック開催都市は、屋内を全面禁煙とするなど、法律や条例で罰則を伴う受動喫煙防止対策を講じており、ホストシティとして、東京都受動喫煙防止条例を平成30年第一回定例会で検討していくとのこと。

北区としての立場、改修費用の対応、喫煙所について今後どのように取り組んでいくのかお聞かせください。

#### 志茂地域の明るい街づくり

東京都は、木造住宅密集地域に道路や公園等の都市基盤が不十分なことから、老朽化した木造建築物が多いことから、地域危険度が高く「首都直下地震による東京の被害想定」において地震火災なども大きな被害が予想されるため、避難道路の確保等の観点から、優先的に無電柱化を行っていく方針とされています。志茂地域で現在、志茂すずらん通り、平和通り商店街も無電柱化のための勉強会を開いています。ぜひ早急に進めていただきたいと思います。

志茂3・4丁目に500世帯を超える大型マンションが建設され、地域の人口がさらに増えます。30年開校予定のなでしこ小学校区域の対応をお伺いします。